1. はじめに

- 信州・諏訪
  言語地理学にとって魅力に富んだ地域
- 信州・諏訪の地理的条件
  東西の境界
  明瞭な地域区分：北信・中信・東信・南信
  山に囲まれた盆地地域
  小さく堅固なコミュニティー
- 想定される方言の異なり・多様性
  東西対立
  多様な方言

- 研究実践
  市民科学が先行して実践
  →諏訪では二人の市民科学者が先駆的に活躍した。
- 研究の継承と課題
  ・正確な分布の把握
    調査方法の明瞭化
    地図の明晰化
  ・地理的条件と方言分布の分析
    要解決課題として、近年アプローチが進む。
    GIS（地理情報システム）の普及で展開
    GISを活用することで様々な情報を地図上で照合できる。

---

2. 方言と言語地理学

- 方言
  場所によることばの違い
- 方言の分布は多様
  対象（例：じゃがいも、とうもろこし、動詞否定形、動詞命令形…）ごとに
  個性がある。
- 言語地理学
  ことばと場所の関係を分析する学問分野
  方言ということばが、なぜそこで使われるのかを解明
- 言語地図・方言地図
  場所によることばの違いを視覚的に表現する地図（主題図）
  日本では20世紀初頭から作成され、各地で（地図集：アトラス）約400冊、
  （地図：マップ）28000枚以上作成→言語地図データベース
  https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/ladp/ladb_index.html
  言語地理学では欠かすことができない資料・ツール

3. 諏訪地方と言語地理学

- 信州：言語地理学の適地
  20冊の言語地図集
  約900枚の言語地図
- 研究実践
  牛山初男（1907-1983）：茅野市湖東須栗平、茅野高校教諭、『東西方言の境界』（1969年、信教印刷株式会社）
  土川正男（1918-1997）：諏訪市湯の脇、諏訪清陵高校教諭、『言語地理学―日本語の歴史地理学的研究』（1948年、あしかび書房）

馬瀬良雄（1927-2014）：信州大学教授
『信州の方言』（1971年、第一法規）
『**上伊那の方言**』（1980年、上伊那誌刊行会）
→1970年代、伊那から諏訪を詳細に調査した言語地図集
『言語地理学研究』（1992年、桜楓社）
『長野県史 方言編』（1992年、長野県史刊行会）

大西拓一郎（1963-）：国立国語研究所教授
『**長野県伊那諏訪地方言語地図**』（2016年）
→2010年代、信州大沢木研究室と共同で『上伊那の方言』を追跡調査
『ことばの地理学』（2016年、大修館書店）
『方言はなぜ存在するのか』（2023年、大修館書店）

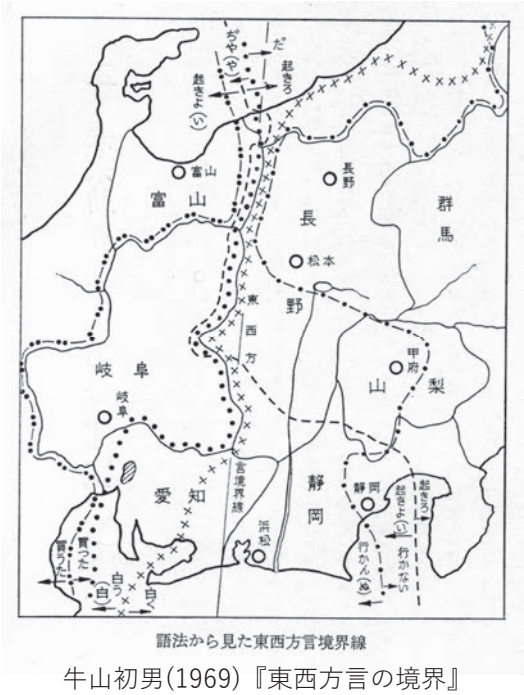
4. 東西対立と信州・諏訪

- 東西対立と方言区画
  東西対立：分布類型
  ＝方言が東と西に分かれる。
  方言区画：方言の分類と系統
  関連するが切り離した方が捉えやすい。
- 信州・諏訪は東西対立の境界線の近くにあたる。
- 諏訪の中を東西対立の境界線が通ること（諏訪の中が東西対立で分断されること）は、ほとんどない。

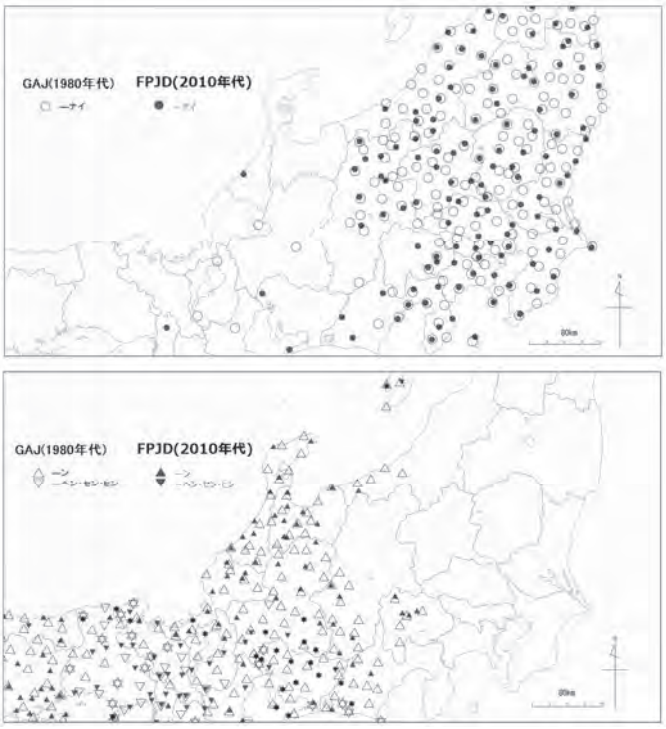
---

5. 東西境界線と牛山初男

- ことばの東西差は上代から知られていた。
- 東西対立境界線の発見
  国語調査委員会（1906年）『口語法分布図』
- 教育の積み重ねを経て、境界線の位置は動くのか。
  標準語の基盤は東日本のことば→境界は、西へ？
- 牛山初男による検証
  自身で調査を実施
- **牛山初男（1953）**
  「語法上より見たる東西方言の境界線について」
  『国語学』12
- 東西対立**不動の発見**
  →対象は**すべて語法（文法）**である点に注意



牛山初男(1969)『東西方言の境界』に掲載(13頁)の総合図



国立国語研究所による全国調査に基づく20世紀→21世紀の検証

動詞の否定形
東：ナイ／西：ン

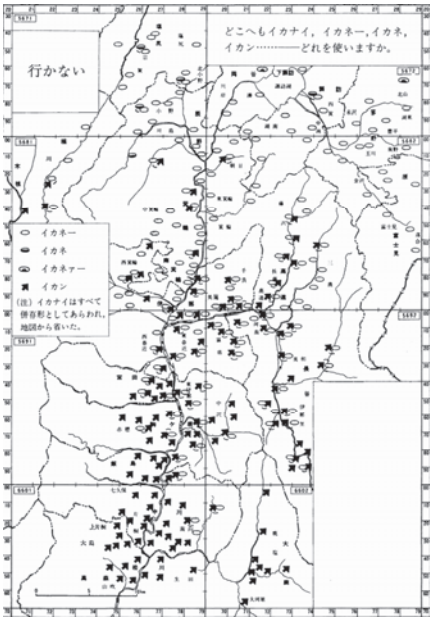
『方言文法全国地図』GAJ
1980年代初頭

『新日本言語地図』FPJD：NLJ
2010年代初頭

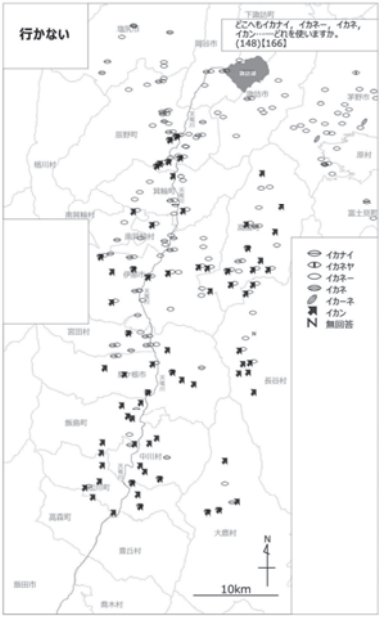
この30年間でも変化がない。

大西拓一郎（2016）「方言の東西」『HUMAN』8　より

上伊那の方言：1970年代



長野県伊那諏訪地方言語地図：2010年代



狭域での詳細な検証

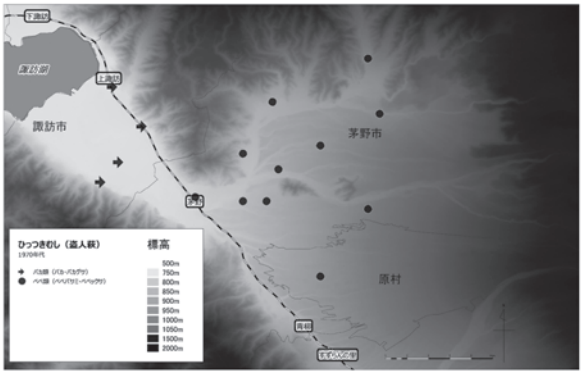
動詞の否定形の分布
ナイ（諏訪）／ン・ナイ（伊那）

狭域を対象とした詳細な分布でも、変化がないことが確認される。

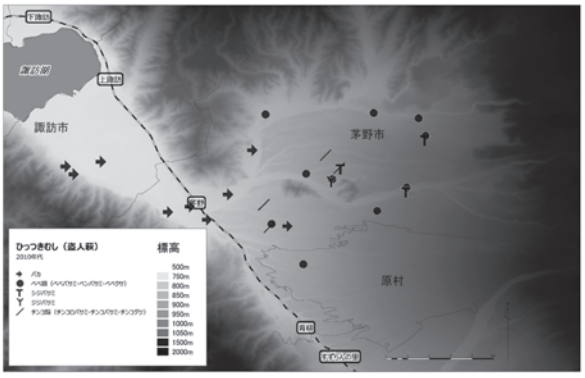
6. 諏訪の方言分布

- 諏訪盆地の方言分布
  東西対立は、諏訪の中の違いに直接は関与しない。
  八ヶ岳側と諏訪湖側に分かれることがある。
  →分布類型：「やまうら」と「やまうら」以外
- 捉えるには、狭域を対象とした詳細な言語地図が必要
- 狭域で差が現れるのは、語彙（単語）の分布

上伊那の方言：1970年代



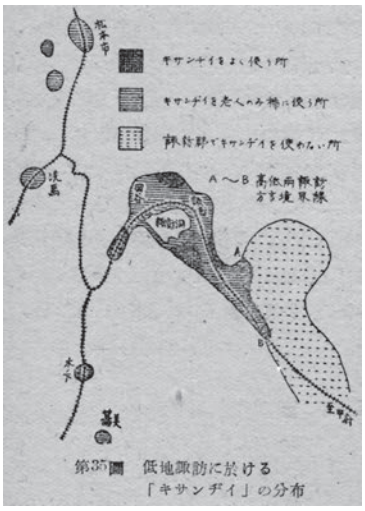
長野県伊那諏訪地方言語地図：2010年代



・「ひっつきむし」ヌスビトハギ、センダングサ、タウコギ、オナモミなど様々な植物のひっつく種子
・1970年代は、「ひっつきむし」を諏訪湖側ではバカ、八ヶ岳山麓のやまうらではべべバサミと言っていた。
・2010年代になると、バカが少し、茅野市側に入りながら、やまうらではシジバサミ・ジジバサミ・チンコロバサミなどの新しい語形が生み出されるという言語変化が発生している。

7. 高地・低地諏訪方言と土川正男

- 土川『言語地理学』＝「戦後のあけぼの」
  →『日本言語地図』LAJ1解説（35頁）「沿革と経過：1. 日本の言語地理学の歴史」
- 土川正男の「高地・低地諏訪方言」
  ＝「やまうら」と「やまうら」以外
- 諏訪盆地を隔てる永明寺山



土川正男(1948)『言語地理学』に掲載(196頁)の高低両諏訪方言境界線。キサンヂイは「立派な、みごとな。出来のいい」とされる。

- 高地・低地諏訪方言
  →ドイツ語内の言語差（高地ドイツ語・低地ドイツ語）を意識した表現
- 尾張fan（土川『言語地理学』72頁）
  東西対立の境界線の位置が幅を持って現れること
- ラインfan
  「尾張fanと同じような例がドイツのRhenish fanである。」
  （土川『言語地理学』74頁）
- Bloomfieldの*Language*（1933年刊）を参照している（土川『言語地理学』74頁）。和訳のブルームフィールド『言語』（大修館書店）は1962年なので、原著で読んでいたはず。

8. むすび

- 諏訪の方言分布とその研究実践
  市民科学から始まった。
  彼らの方言への姿勢は「科学」的であり、研究対象として客観的に方言を扱う。
- 東西対立不変・高地低地諏訪区分の発見とその意味
  不変と区分の発見も市民科学にあった。
  それらが意味することの解明は、われわれに委ねられている。
- 信州の市民科学による言語地理学の実践者は、牛山・土川にとどまらない。
  浅川清栄（あさかわきよまさ）氏（1925-2003）
  諏訪清陵高校で定年。養川せぎ等を研究した歴史学者として知られるが、初期は方言を研究していた。諏訪実業高校で学生たちと『諏訪方言集』（1961年）を編集
  薮原繁里氏
  辰野高校文学クラブ『辰野町およびその周辺地域方言地図』（1976年）
  辰野高校文学クラブ『辰野町およびその周辺地域方言地図　改訂版』（1978年）

- 課題1：市民科学者たちの背景へのアプローチ
  牛山初男氏と土川正男氏は、旧制諏訪中学校出身で、在校時期は
  三澤勝衛の在任期間と重なる。
  彼らと三澤との関係はどうだったか。
  土川氏は三澤への言及あり（土川1957：112頁）
- 課題2：市民科学相互のつながりの解明
  言語地理学の市民科学における相互の言及・引用がない。
  考古学・地理学など、他分野市民科学どうしのつながりも見えにくい。
  藤森栄一『信州教育の墓標―三沢勝衛の教育と生涯』（1973年、学生社）にも
  自らの出版社から刊行した土川氏への言及がない。

文献

牛山初男（1953）「語法上より見たる東西方言の境界線について」『国語学』12、59-63頁
牛山初男（1969）『東西方言の境界』（信教印刷株式会社）
大西拓一郎（2016）『長野県伊那諏訪地方言語地図』
大西拓一郎（2016）『ことばの地理学ー方言はなぜそこにあるのか』（大修館書店）
大西拓一郎（2016）「方言の東西」『HUMAN』8、41-50頁
大西拓一郎（2023）『方言はなぜ存在するのかーことばの変化と地理空間』（大修館書店）
大西拓一郎編（2016）『新日本言語地図』（朝倉書店）
国立国語研究所（1966-1974）『日本言語地図』全6巻（大蔵省印刷局）
国立国語研究所（1989-2006）『方言文法全国地図』全6巻（大蔵省印刷局・財務省印刷局・国立印刷局）
土川正男（1948）『言語地理学ー日本語の歴史地理学的研究』（あしかび書房）
土川正男（1957）「つかれた、そうだろうの長野県方言」松本史談会編『松本平の話』（松本史談会）、95-117頁
藤森栄一（1973）『信州教育の墓標ー三沢勝衛の教育と生涯』（学生社）
馬瀬良雄（1971）『信州の方言』（第一法規）
馬瀬良雄（1980）『上伊那の方言』（上伊那誌刊行会）
馬瀬良雄（1992）『言語地理学研究』（桜楓社）
馬瀬良雄（1992）『長野県史 方言編』（長野県史刊行会）

---

webサイト

言語地図データベース（『上伊那の方言』も閲覧可能）
https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/ladp/ladb_index.html

日本言語地図
https://mmsrv.ninjal.ac.jp/laj_map/

方言文法全国地図
https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-pdf/gaj-pdf_index.html

長野県伊那諏訪地方言語地図
https://www2.ninjal.ac.jp/takoni/GISME/Linguistic_Atlas_of_Ina-Suwa.pdf